

氏名	氏 平 一 郎
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 142 号
学位授与の日付	昭和39年6月30日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	血清トランスアミナーゼ活性値の臨床的意義に関する研究
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 要 旨

肝炎および肝硬変の経過中、血清トランスアミナーゼ活性値、特にGlutamic oxaloacetic transaminase (GOT) および Glutamic pyruvic transaminase (GPT) 活性値が変動を繰返す場合のあることに注目し、第1篇ではその変動を長期の観察により追及し、活性値の変動を6型に分類し、急性慢性肝炎、肝硬変それぞれに興味ある所見をえたが、ことに輸血後肝炎のそれが再発性慢性肝炎のそれに酷似していることや、慢性肝炎で変動を繰返すものは組織学的にグ鞘炎型に属するものである点が注目され、またこれら活性値の変動には肝細胞の変性、壊死所見があくまで一義的な関係をもつことを明らかにした。次で第2篇では治療の目的で使用される副腎皮質ホルモンが血清 GOT, GPT 活性値に変動を及ぼす点に注目し、その際の変動の本態を追及し、急性肝炎ではその影響は少く、あつても一峰型の変動に過ぎないが、慢性肝炎、肝硬変では変動型を示す率が高い。その本態の追及では炎症ことに慢性炎症に影響を与え、肝細胞の変性・壊死を招来するものとの成績をえている。

昭和39年6月 岡山医学会雑誌に掲載

論文審査の結果の要旨

氏平一郎提出の「血清トランスアミナーゼ活性値の臨床的意義に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

先ず第1篇において急性、慢性肝炎、肝硬変の多数例につきその経過を追っての観察をつづけた結果、血清 GOT, GPT, 活性値の変動は3つの大分類、各々をさらに2つに分類することが出来ることを提唱し、これらの型から肝炎および肝硬変の病状、進行度を明らかにすることが可能な点を実証した。次にこれら活性値の上昇の意義を肝組織変化と対比検討し、肝細胞の変性、壊死とは関係が深い、炎症所見、ことに慢性化の所見とは必ずしも一致しないことを認明している。

第2篇では肝炎、肝硬変の治療に用いられる副腎皮質ホルモン投与後の血清 GOT, GPT 活性値の変動に注目し、その本態を追及したが、その変動は急性肝炎より慢性肝炎、前硬変により多くみられ、さらに組織学的には慢性炎症がより強く、活動的である際にみられるが、活性値の上昇はあくまで炎症に次ぐ肝細胞の変性、壊死にもとづくものであることも明確にしている。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。